

日本語メールの送受信について

総合情報処理センター 車古 正樹・高田 良宏

当センターでは、電子メール（e-mail）として以下のものが利用出来ます。

1. MSPNET 学内のメール交換（センターのユーザ）
2. JUNET 学内外のメール交換（JUNETに加入しているEWSのユーザ）
3. BITNET 学内外や国外とのメール交換（センターのユーザ）

上記いずれのe-mailでも日本語が利用出来ます。しかしながら、日本語はそのままの形で送受信出来るとは限りません。なぜならば、日本語は利用しているネットワークや計算機システムによって表現方法（漢字コード）が異なっているからです。

日本語メールを利用する場合には以下の表を参考にして下さい。

	MSPNET	JUNET	BITNET	←送信
MSPNET	○	×	×	
JUNET	×	○●	▲	
BITNET	×	△	○●	
				↑受信

表中の記号について

- 同一ネットワークで、かつ同一漢字コードを使用している場合である。したがってそのままの形で日本語の送受信が行える。
- 同一ネットワークで、漢字コードが異なる場合である。漢字コードの変換を行うことにより、日本語の送受信が可能となる。ただし、JUNETの場合は学外との送受信は原則として、JIS漢字コードで行わなければならない。なお、JUNETに加入するEWS（エンジニアリングワークステーション）はメールソフトや漢字コード変換機能を必要とする。
- ▲ BITNETのユーザがJUNETのユーザに送信する場合は、JIS漢字コードに変換してから送信する。
- △ BITNETのユーザがJUNETのユーザから受信する場合は、JIS漢字コードで受信し、JEF漢字コードに変換する。
- × 他のメールシステムと送受信が出来ない。

学外や国外の人とメールを送受信する場合は、当センターのBITNETユーザになることをすすめる。ここでは、BITNETの日本語メールの送受信の仕方について以下に示す。

1. BITNETの起動方法

BITNETの起動は、汎用機と接続し、READYが表示されたら、以下のコマンドを入力する。

BITNET

BITNETの初期機能選択画面が図1のよう表示される。

```
NETDATA-K -----< FUNCTION MENU >-----  
  
FUNCTION NO      ===>  
  
-----  
1 SEND MAIL  
2 SEND JAPANESE MAIL  
3 SEND FILE  
4 SEND MESSAGE  
5 SEND JAPANESE MESSAGE  
6 PROCESS RECEIVED MAIL/FILE  
7 PROCESS RECEIVER INFORMATION  
8 CALL PFD  
X TERMINATE NETDATA-K PROGRAM  
  
-----金沢大学機能-----  
A PFDの日本語EDITを呼び出す  
B IBM漢字とJEF漢字の変換を行う  
C JIS7漢字とJEF漢字の変換を行う
```

図1 初期機能選択画面

なお、BITNETの概略は前号の広報の「電子メール・BITNET事始め」を参照すると良い。

2. 文章の作成

日本語メールを送信する場合は、まず、送信文章を作成する。日本語文章の作成は、初期画面でFUNCTION NO欄に **A** を入力する。図2のようにEDITのデータセット(FILE)指定画面が表示される。

EDITのデータセット指定画面で、以下のものを指定する。

プロジェクト名	===> AB9999	ユーザ名(課題番号、英大文字)
ライブラリ名	===> BITNET	8文字以内の英数字
タイプ名	===> NOTEBOOK	8文字以内の英数字
メンバ名	===> JPMAIL	8文字以内の英数字(文章毎に変更)

メンバ名は省略できるが、初めての場合は必ず指定する。日本語EDITの画面になる。EDITの操作方法については以下のマニュアルを参照するとよい。

「FACOM OSIV/F4 MSP PFD使用手引書 日本語処理機能編」、富士通
「PFD入門 画面を利用した簡便な計算機利用方法」、センター利用の手引き

```

-----< EDIT - データセットメニュー >-----
コマンド ==>
編集するデータセットを指定して下さい。

PFDライブラリデータセット：
プロジェクト名 ==> AB9999
ライブラリ名   ==> BITNET ==>           ==>
タイプ名       ==> NOTEBOOK
メンバ名       ==> JPMAIL (省略するとメンバ名選択リスト)

PFDライブラリ以外のデータセット：
データセット名 ==>
ボリューム通番 ==> (カタログされていない場合)

パスワード     ==> (パスワード保護されている場合)

プロフィール名 ==> (何も指定しないタイプ名が省略値)

日本語データ   ==> YES (YES又はNO)

```

図2 EDITのデータセット指定画面

なお、パソコン等で作成済の文章を利用する場合は、以下の注意が必要である。

- ・ DOS の TEXT ファイルを汎用機にあらかじめ送信しておく。
- ・ 文書処理用ソフトで作成した場合は DOS の TEXT ファイルに変換し、送信する。
- ・ DOS の TEXT ファイルで文章が 7 2 文字（日本語の場合は 3 5 文字）を越える場合は予め改行を入力しておく。
- ・ PC98 の場合の転送方法は次の手引を参照すると良い。
「FCATの利用方法 PC98シリーズについて」、速報No.2,3
- ・ FM-R の場合の転送方法は次の手引を参照すると良い。
「事例紹介」 榎谷 浩, 情報処理センター 広報Vol.11, No.1

3. コード変換

当センターの汎用機で使用する日本語は J E F 漢字コードである。メールを送信する相手先の計算機システムのユーザと送受信するコードについて協議する必要がある。もし、相手側が I B M 漢字コードを希望するならば、初期機能選択画面で **B** (I B M 漢字コード変換) を入力する。図3の I B M と J E F 変換画面が表示される。

文章の入ったデータセット名を指定する。

データセット名 > BITNET.NOTEBOOK(JPMAIL)

上記の指定は図2の ライブラリ名、タイプ名(メンバ名) である。処理欄に **2** を入力すると同一データセットに I B M 漢字コードに変換された文章が入る。

-----<金沢大学・IBM⇔JEF変換画面>-----IBMJIS-----

処理 ==> 2

データセット名 > BITNET.NOTEBOOK(JPMAIL) DISK

1 : IBM⇔JEF変換

2 : JEF⇔IBM変換

3 : 編集(NEDIT)

X : 終了

終了はEND(PF3)キーを押す

図3 IBMとJEF変換画面

相手側がJUNETのユーザならば、初期機能選択画面で **C** (JIS漢字コード変換)を入力する。以後の操作はIBMの漢字コード変換とほぼ同じである。

4. 日本語メールの送信

初期機能選択画面で **2** を入力する。図4の日本語メール送信画面が表示される。

NETDATA-K -----< SEND JAPANESE MAIL MENU >-----
COMMAND ==>

MAIL SUBJECT ==> TEST MAIL

TEXT FILE NAME ==> BITNET.NOTEBOOK

TEXT MEMBER NAME==> JPMAIL

RECEIVER NAME

=> C01928@JPNKUDPC

=>

=>

図4 日本語メール送信画面

図4の画面で以下のものを入力する。

```
MAIL SUBJECT      ==> TEST MAIL          表題(無くても良い)
TEXT FILE NAME    ==> BITNET.NOTEBOOK   データセット名
TEXT MEMBER NAME ==> JPMAIL             メンバ名
RECEIVER NAME
=> C012459@JPNKUDPC                    相手先アドレス
```

データセット名とメンバ名は前もって準備した文章の入ったものを指定する。なお、コード変換が必要でない場合には、指定しなくても良い。指定しない場合はPFDのEDITの画面となり、文章の作成が出来る。

相手先アドレスは必ず指定すること。アドレスの誤りはチェックされず迷子メールとして、送信される。中継する各計算機システムに迷惑がかかるので、十分注意する必要がある。誤りを無くするためにニックネームの利用をすすめる。ニックネームの利用は前号の広報のテクニカルノートを参照するとよい。

5. 受信日本語メールの変換

BITNETの受信メールで相手側がIBM機である場合や、JUNETからのメールは、コード変換を必要とする。初期機能選択画面で6を選択すると、図5の受信メール画面が表示される。

```
NETDATA-K -----< RECEIVED MAIL/FILE LIST >-----
COMMAND ==>                                           SCROLL==> PAGE
-----
BROWSE RECEIVED MAIL/FILE ==> B          PRINT RECEIVED MAIL/FILE ==> P
STORE RECEIVED MAIL/FILE TO DISK ==> S  DELETE RECEIVED MAIL/FILE ==> D
REPLY RECEIVED MAIL ==> R              FORWARD RECEIVED MAIL ==> F
-----
OP C TY FILE NAME / MAIL SUBJECT          FROM          DATE TIME
S JM No subject                          CC0190@JPNKNZW1.B 11/27 14:23
M BITNET                                  C05429@JPNKUDPC  11/29 12:03
```

図5 受信メール画面

対応するメールの左端のオプション(OP)欄にSを入力すると、図6のメール保存画面が表示される。

メール保存画面でFILE NAME(データセット)とメンバ名を指定する。

```
FILE NAME      ==> BITNET.NOTEBOOK   データセット名
MEMBER NAME    ==> RVJPN             メンバ名(新規のメンバ名を指定)
```

```
NETDATA-K -----< RECEIVED MAIL/FILE STORE MENU >-----  
COMMAND ==>  
  
FILE NAME      ==> BITNET NOTEBOOK  
MEMBER NAME    ==> RVJPN  
VOLUME SERIAL NO ==>
```

図6 メール保存画面

保存が完了後、初期機能選択画面に戻り、対応するコード変換画面を選択し、前述したのと同様な方法でコード変換を行う。コード変換終了後、同一画面の **3** の EDIT を選択すると受信メールを読むことができる。

おわりに

日本語メールについての原稿依頼を受け、実際に日本語メール交換のテストを行うと、ネットワークや機種により日本語のメール交換が出来ない場合が多かった。そこで、著者等でBITNETのシステムに日本語メールの送受信が可能となるように一部機能を追加した。

システムの機能追加にあたり、IBM漢字コードについては金沢工業大学加藤恭子氏と富山大学の高井正三氏に御教授頂き深く感謝致します。なお、漢字コード変換機能はJIS1、JIS2漢字まで可能です。より良きシステムとなるようにしたいと思いますので、実際に利用し、問題点や改良点がありましたら、著者までお知らせ下さい。